

# 生活指導分科会

## I 研究のあゆみ

4月17日(月)	2023年度名教組教研オリエンテーション (2023年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(火)	発表テーマ報告・集約	
5月15日(月)	研究計画の検討	【東港中】
5月下旬～6月下旬	全体での会は開かなかったものの、個別に指導	
7月21日(金)	研究内容の検討 (第2次実践の検討と研究のまとめ方)	【東港中】
8月	レポートの検討【全体での会は開かなかったものの、指導者と個別に検討】	
9月6日(水)	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【東港中】
9月16日(土)	第73回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

## II 研究協議の概略

「たくましく生きる子どもを育てよう」をテーマに掲げ、次のような視点で研究に取り組んだ。

- 1 子どもの気持ちを大切に、実態を正しく把握した上で、子どもたち一人ひとりをどう理解し、支援していくのか。
- 2 集団の質を高めるために、活動をどう充実させ、発展させていくのか。
- 3 家庭や地域との連携をどう進めていくのか。

その中で、以下のような実践が報告された。

- 自分が困っているときに、友達にどのように関わってほしいかを互いに共有したり、実際に声を掛ける場面を疑似体験したりすることで、困っている友達のために、進んで助けることができるようになる実践。
- 友達からどのような言葉を掛けられるとうれしいかを考えたり、どのような場面で相手を思いやる言葉を掛けるとよいかを考え、体験したりすることで、友達の気持ちを考えた言葉を掛けられるようになる実践。

2つの実践は、自発的に子どもが自己の成長をめざすという点で共通している。そして、それには教師の支援が必要不可欠であり、どのように教師が関わるのが効果的なのかを試行錯誤しながら各会員が実践を進めた。

## III 今後に残された課題

2つの実践が有効であることが報告されたが、課題も少なからず残された。どの実践でも、めざす児童の姿に近づいてはいるものの、今後も継続して実践を続ける必要がある。特に授業で練習したことが実生活でよりできるようにしたり、実践の期間を終えても目指す児童の姿を維持させたりするために、実践の継続が必要との報告があった。また、実践によっては個人差があるため、個別での支援も必要であることが挙げられた。